

# 土浦女性団体だより

# つどい

第22号

平成28年3月発行

編集・発行：土浦市女性団体連絡協議会

土浦市大和町9-1 土浦市役所本庁舎2階 土浦市男女共同参画センター内 TEL029-827-1107

ひとりひとりが輝く社会  
学びそして実践を！

土浦市女性団体連絡協議会会長  
眞山淑枝



土浦市女性団体連絡協議会の要望が叶った新庁舎の研修室活用も軌道に乗り、この研修室が27年度には多くの学びの場となった。

例年、男女共同参画センターと共催で行われていたフェスティバルは土女連主催となり、各団体の交流を軸に開催された。

(同誌参照)

また、学ぼうシリーズ第5回は、「私たちにとって霞ヶ浦は」と題し、市環境保全課・浅野課長による「霞ヶ浦の現状説明」及び、「浄化実践対策」を土女連の眞山、服部が担い、生命はぐくむ湖を守るため、水質改善の兆しはあるか、住民の役割は、と熱心な学習会となった。一方、行政との共催事業につ

いては、ドラ・トーザン氏の「女性が輝く社会を作るため」の講演会が行われるなど多様な学びの機会を得た。女性が輝くなど心地よい言葉、しかし現実の社会は・・・？ 学びを自分の中でしっかり成熟させ、実現に向けて行動したい。

土浦市では第3次男女共同参画推進計画（後期計画）も策定された。準備条件は整った。誰もが輝く社会へどう動くかにかかっている。

## 平成27年度 男女共同参画センターフェスティバル 協働で未来につなげる交流会

2016年2月5日（金）10:30～15:00

於土浦市役所 2F 男女共同参画センター研修室



平成27年度のセンターフェスティバルは、土浦市女性団体連絡協議会主催、土浦市男女共同参画センター後援での開催となった。平成27年9月に新庁舎ができ、男女共同参画センターも庁舎内に設置された。今回はこれまでの各団体の活動を顧み、新しい活動拠点としての男女共同参画センターでの交流とこれからの女性団体活動の展開を探ることを目的として「土浦市の男女共同参画の歩み」や土女連所属団体の「活動紹介」、昼食を食べながらの「交流パーティー」など和やかな雰囲気の中で行われた。午後からは茨城大教授・渋谷敦司氏の「男女共同参画と少子高齢化―地方創生の課題を考える」というテーマで講演が行われた。

(続2ページ)



土浦市男女共同参画宣言文を群読する参加者

男女共同参画までの道のり  
男女共同参画課 嵯峨課長

現在の男女共同参画センターは世界↓国↓県↓市に繋がる国連女性地位向上のために作られた。平成3年、教育委員会内に女性行政係として設置後、室から課へ大きくなり、現在に至っている。

活動紹介

土浦市女生団体連絡協議会所属14団体中3団体が活動を紹介します。

J A土浦女性部

大川ちよの

現在7支部で「共に考え行動する」をスローガンに活動中。



うららフレンドハウス

平田洋子

女性の地位向上、人権問題に取り組み、小中学校での出前講座を開催している。



土浦市食生活改善推進委員会  
高橋街子

現在8支部で「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に食を通してボランティア活動を行っている。



「男女共同参画と  
少子高齢化—地方創生の課題を考える」

茨城大教授 渋谷敦司氏



最近の女性施策について講演をいただいた。

まず、地域の課題として少子化高齢化がどのように論じられ、男女共同参画の視点が入っているかという大きな命題を挙げ、結婚・出産・育児に対して、意欲の問題にする少子化対策(例・自治体の婚活支援事業)や、介護需要が増える首都圏対策としての高齢者地方移住計画の発想に疑問

を投げかけた。又、仕事と家庭の両立がなぜできないかについて、国際的に見て日本女性の地位が非常に低い現実に国連女性差別撤廃委員会からの勧告のいくつかを紹介。

- ・男女の固定的役割観念が根強い
- ・意思決定への女性参画の低さ
- ・人権、男女平等教育の強化
- ・民法に差別的規定が今なお存在

介護の現状なども在宅重点化に対し、ご自分の体験などを交え、「家族介護」の負担増、公的施設利用の抑制など、様々な懸念を示した。一億総活躍が言われる中、真の男女平等を考え、本気でとり組むことを示唆する内容だった。

渋谷先生の講演を聴いて

うららフレンドハウス

岡田美枝子

私達は、1995年世界女性会議NGOフォーラムに参加後、仲間と共に女性の人権問題に取り組んできたが、世界女性の憲法と言われる女子差別撤廃条約の基本理念と自分たちの足元の問題をどう絡めて活動に生かしていくのか模索の連続だったように思う。諸活動の規範となる当条約批准から30数年経つが、渋谷先生によると、国の重要政策等を論じる過程で条約に対する理解不足があるのでと苦言を呈さ

れた。日本の今日的課題である少子化問題を論じる時に「女性に産む権利」まで考慮されたか？高齢化対策においても男女共同参画の視点を深める議論がなされたのか等々、鋭い切り口での講話はそれぞれの活動を省みる好機会になったと思う。同時に日本の現状を地域から見直すためにも、地道に活動を続けて条約の基本理念を次世代に繋ぐ大切さを痛感した。

交流パーティー

メインのサンドウィッチに加え、会員手作りのデザート、サラダなどが色を添えて交流会が一層楽しい時間となりました。



おしゃべりこれぞ交流



学ぼうシリーズV  
私たちにとって霞ヶ浦は  
「生命はぐくむ湖」  
平成28年3月14日(月)  
参加者30名

(1) 「霞ヶ浦の現状と対策」  
講師 土浦市環境保全課長  
浅野 満夫

霞ヶ浦の概要・霞ヶ浦の生い立ち・水の利用と管理・土浦市の水質保全対策について写真や地図や表を示して説明がありました。20万年前は海退があり、現在の形は利根川東遷によって川の運ぶ土砂によって河口部分がせき止められ、湖になったという。水深は最大7m、流入河川数は56で、滞留日数は約200日などの概要を話された。

生活に直結する水道用水は約90万人の生活を支え、県の4つの広域水道事業の70%が霞ヶ浦の水利用となっている。水質については平成20年度からの10年計画で二期目の「土浦市生活排水対策推進計画」が進められており、下水道をはじめ様々な分野での啓発が行われている。しかし、依然として汚濁の原因は生活排水にあり、環境基準の達成には至っていない、等の話があった。

(2) 「住民の役割く水質改善へ生活排水対策の実践く」  
講師 暮らしの会 眞山淑枝  
土浦母の会 服部喜代子

浅野さんの説明を受けて眞山さんからは環境への負荷をいかに少なくするか、特に汚濁の40%を占める生活排水についてしっかり学習してほしいと話されました。食器は油分や汚れを拭いてから洗うこと、洗剤も少量でOK、みそ汁は飲み切る等全て節約に心掛けることを強調しました。

また、「土浦母の会」で活動されてきた服部さんから環境を考えて洗剤の代わりに暮らしの中に重曹を取り入れましょうというお話ですぐ実践に結び付きそうです。長年に渡り、霞ヶ浦の水質に取り組んでこられたお三人のお話は説得力がありました。

最後に洗剤を使わずに洗える指編みアクリルタワシを作りました。出来栄はそれぞれでしたが、「マイアクリルタワシ」が出来上がり笑顔がこぼれました。



服部さん 眞山さん



マイアクリルタワシ色々  
10分程で完成しました!

各種講演会に参加して

「自分らしく生きる」

夢に近づくための  
ワークライフバランス  
H27年10月24日  
(株)ワーク・ライフバランス  
代表取締役・社長 小室淑恵氏

土浦市木田余在住 新井三希子

小室さんは、休業支援復帰支援事業を行っているときに、復帰しても他の社員が残業中に自分は今短勤務で退社する負い目や、やる気の低下、時間内に終わらない仕事はしない、出世の見込みがないから重要な仕事や、やりがいのある仕事は引き受けない等、自分の将来を諦めていく人の姿を目の当たりにした。私も産休明けで出勤後にパート勤務を勧められ、同じ仕事をしているのにと差を感じました。会社側の働ける人を雇うのではなく、今働いている人のスキル・人脈・人間関係をそのままに、働き方を変えて残業ゼロ、時短勤務を実現し、定時退社後の時間を自分のために使えることで、家庭も仕事も充実すると、自分が望む未来を自分のものに出来る。変わればできると元気をいただきました。

「女性が働く社会を作るために」

フランスの男女平等から学ぶ  
H27年11月14日  
エッセイスト・国際ジャーナリスト  
ドラ・トーザン氏

土浦市大岩田在住 泉 雅子

この日はフランス・パリで同時テロ事件が発生し、大きな被害を伝えるニュースが朝から流れていた。講師のドラ・トーザン氏も悲しみを隠し切れずにいた。そのような中で、ドラ・トーザン氏は日本の問題点を教育費の高さと日本の労働時間の長さが出生率の低さにつながっていると指摘していた。日本も何らかの型でシフトしていく必要がある。昨今は、子供の貧困やいじめが子供の自殺へと繋がるケースが多い。また未来ある若者の短絡的な犯罪の背景には八方塞がりな社会への不満がある。政治はもう一度、昔の日本の良きところを見直し、真の教育に力を入れるべきだろう。

ドラ・トーザン氏が言うように日本は市民の声が届かないと思う。政治を他人事と思わずに、国が良い方向へ向かうよう声をあげていく事が、今後の日本には必要だろう。



# 日本女性会議 2015 倉敷

## 「思いやり 男女（ひと）が 集う白壁のまち」

日本女性会議に参加して

「男女（ひと）が輝く」  
うららフレンドハウス 永井敬子

第7分科会

現場で考える貧困家庭への支援  
六好会 渡辺久子

第8分科会

食の男女共同参画  
食生活改善推進員連絡協議会  
木野英子



倉敷天領太鼓の勇壮な響きの余韻に浸る中、会議が開会。

記念講演講師は、倉敷市出身のNHKアナウンサーの武内陶子さんと大学教授の上田紀行さん、お二人はご夫婦である。著名なご夫妻の話に期待は大きい。武内さんは朝番組担当の際は毎朝2時起床。紅白歌合戦の総司会をした時の緊張話から、人へ伝える言葉の大切さを語る。子育て苦労話は出なかった。

次いで上田先生の登壇。「武内さんの話は素晴らしい」と会場を沸かせる。いかに人間として輝くか、人間の生き方について胸打つ話であった。お嬢さんたちとの関わりもほほえましい。女性で輝く社会は男性も輝く、つまり『男女（ひと）が輝く事』である。

第7分科会は、弱い立場の人に大きな影響を与える貧困の支援活動を大阪で実践中の生田武志さんの講演でした。貧困の程度が深刻な日本のこどもの現状、入学式の用意ができないという相談、失業・離婚・暴力等の原因での母親の精神的不安、そんな中で増えていく家に帰れないこどもや野宿するこども等々の話。一方、増え続けるホームレスの男女、暮れに駅のトイレで体を温める若い夫婦。こういった深刻な話に会場は驚きと溜息の連続でした。「ギリギリまで我慢しない。隠さない」この事が一番大事であり、人との繋がりが容易に相談できる人や場所の存在が大切と訴えておられました。重いテーマの、そして解決の難しい「貧困」の分科会でした。

タニタ食堂管理栄養士による「はかる・わかる・きづく・かわる」健康づくりの為の食事の基本の話に続き、タニタ元社長と、くらしき作陽大学山下先生の対談が行われました。赤ちゃんが生まれて母乳を飲んだ時から末期の水に到る迄、人にとつて欠かせない「食」ですが、ライフステージ毎に自分にとっての適正な食事を自己管理するのは簡単ではない。限りある食物を分かち合う事、貧困家庭のこどもに栄養だけでなく幸せを感じられる食を供する事、自立困難な高齢者への社会的援助等、男女皆で協力し合っている活動が大事と深く認識させられました。イベント開催だけでなく、持続的に教育に携わって行きたいと感じました。



倉敷天領太鼓

会場前で

平成27年10月9日(土)~10日(日) 日本女性会議 2015 倉敷が岡山県・倉敷市で開催されました。当協議会から3名が参加し、各自が問題意識を持つ分科会を選択して研賛を積みました。平成28年度は10月28(金)~30日(日)に秋田県秋田市で日本女性会議 2016 秋田「みつめて みとめて あなたと私〜多様性(ダイバーシティ)とは〜」が開催される予定です。

### 研修部会活動報告

部会長 吉田照美  
(JA上浦女性部)

#### 第1回研修会(ゴミ処理場見学)

2015年12月8日、12名の参加でプラスチックゴミと生ゴミがどのように処理されているか「関東リサイクルパーク」と「神立資源リサイクルセンター」を見学。施設とも懇切丁寧な説明があり、プラスチック処理は最終ではないが県外からも大量に運び込まれ、仕事に従事する人達に頭の下がる思いであった。生ごみ処理には「勿体ない！」の連呼。ゴミをいかに少なくするか、大きな課題であると改めて考えさせられた。

#### 第2回研修会(各種報告会)

2016年2月19日40名の参加で

I部は倉敷での日本女性会議参加者4名による各分科会で共感されたこと、これらの活動に役立てたいなどの思いを語っていただいた。

II部は「明日の茨城を考える女性フォーラム」について山田さんが説明。第13期代表

鈴木君枝さんが2年間の研究まとめを詳しく報告した。充実した研修会であった。

ゴミ処理場見学会に参加して

渡辺多加子  
(土浦市更生保護女性会)



新しい分別収集の実施からまもなく1年になります。分別をして驚いたことは、想像以上にプラスチック製品が私達の生活に関わっていることです。その中で「汚れを落として出す」という事に少し懸念を感じています。そのため霞ヶ浦の汚染が進むのでは?という心配です。汚れのひどいものは、勿論燃やせるごみへ出すとしても、洗剤の使用は増えているかもしれせん。また資源リサイクルセンターの見学では、勿体ないほどの食品の廃棄物の山を見ました。この研修後に私達がしなくてはならない事、それは霞ヶ浦を汚さない、食べ物を無駄にしない事です。汚れた食器はザッと拭き取り、洗剤は薄めたものを、買った食材はきちんと使い切る、と言った当たり前のことをしていききたいと思えます。

### 調査研究部会活動報告

部会長 田村尚子  
(土浦市更生保護女性会)

2016年1月19日 会議  
2016年2月1日

「シルバー世代の食生活について(2回目)」 出前講座で講義

2016年3月15日  
「シルバー世代の食生活について(3回目)」 出前講座で調理実習

管理栄養士さんのもと、鯖缶を使った餃子など、塩分、油分のカット法はとても勉強になりました。試食後、眞山会長より霞ヶ浦を守るべき注意点を話し頂き、生活の中での一人一人の心構えの大切さを学びました。



全部食べても塩分は2g。  
なのに美味しいね!



ウララII 5F  
調理室にて



メニュー

- おさかな餃子(鯖水煮缶使用)
- 小松菜の桜ソース
- きりぼしのナポリタン





総務部会活動報告

部会長 神立史子  
 (土浦市地域婦人団体連絡協議会)

昨年の「つどい」の作成が年度末に行事が集中したため、大変忙しい日々を送りました。広報紙は年度内の全ての行事が終わらなければ、完成させることができません。しかし部会の皆さんが、原稿を集める工夫をそれぞれに頑張つてやってくださいますので、うれしく思っています。

議会傍聴受付担当6人の方は、それぞれ都合の悪い時は日時を取り替えてくださつて、やり終える事が出来ました。

新庁舎が出来上がり、議会議室もすっかり様変わりしましたので、受付担当者に集まってもらい、どの場所でするか決めました。その時、看板が重くて持つてくるのが大変だと言われましたので、なるべく軽くするよう工夫して作成しました。また、新しい議場について感想等も集めました。

総務部全体の係になられた方々の力の入った一年でした。

新庁舎の新議場にて

市議会傍聴受付



新しい看板(手作り)



受付の様子

新議場について土女連傍聴者に感想を聞きました

- ・議員、傍聴者へのバリアフリーが配慮されている。
- ・旧議場より天井が低く、狭く感じる。
- ・以前は高いところから見下ろす感じだったが、新しい議場では議員さんを近くから見ると。
- ・新しい傍聴用椅子には引き出し式テーブルが付いていて、メモが取りやすくなった。
- ・執行部席に女性が早く並ぶことを願っています。

《傍聴人が守るべきこと》

- ① 議会の言論に拍手その他で公然と可否を表明しない
- ② 談論、歌を歌う、高笑い等騒ぎ立てない。
- ③ はち巻き、腕章等示威的行為をしない。
- ④ 帽子、コート類、えり巻類を着用しない  
(病気その他の理由で委員長の許可があればよい)
- ⑤ 飲食、喫煙をしない。
- ⑥ みだりに席を離れ、又は不体裁な行為をしない。
- ⑦ 秩序を乱したり、会議の妨害となる行為をしない。



新しい議場

6月

議会傍聴者の感想

- ・市議選後初の市議会だったせいか、記者席は満席、傍聴者もいつもより多いと感じた。
- ・新人議員の質問は、はっきりと聞き易かった。
- ・平成30年度から小中一貫校となるというのだが、現在の状況(新治・真鍋)のメリット、デメリットについてよく考えさせられた。
- ・国民宿舎「水郷」が復活の方向で検討されていることが解り安心した。
- ・のら猫問題は我が家の庭も通り道なので困っています。
- ・市議会傍聴は1日目の質問者がいつも決まった議員さん。質問者の順番についてよい案が出ることを願います。

新しい議場で市議会を傍聴してみませんか?



土浦市イメージキャラクター つちまる

その他の活動報告

広島平和記念式典に参加して  
うららフレンドハウス

細野伸子



原爆ドームの前で

70年前、広島は壮大な核の実験場になった。それにもかかわらず、原爆投下の相手国を非難することなく、怒りを押さえ、慰霊と追悼の気持ちのこもった「広島平和祈念式典」が粛々と執り行われていた。私も純粹な気持ちで、平和を願い「広島平和の歌」を歌った。

平和を守るために自分に出ることは何だろうか。「非核平和都市宣言」をもつ土浦の市民として、私に与えられた一票を投じること。そして、市民会館で毎年行われるであろう「平和と人権の集い」に参加し、反戦・平和の思いを新たにしていること、と考えた。

土浦市社会教育委員会議

生涯学習推進委員会

土浦市地域婦人団体連絡協議会

滝田国子

5月25日、茨城県教育研修センターに於いて宮城教育大教授、梨本雄太郎教授による「発言し行動する社会教育委員」と題しての講演会がありました。また生涯学習、社会教育に携わる社会教育委員としての学習活動活性化のための講義がありました。参加人数は、各市町村教育委員会及び生涯学習委員100人ほどの人が参加しました。

7月に社会教育委員会議、生涯学習推進協議会が新治公民館であり参加しました。

10月は筑西合同庁舎にて講義を受講

11月には1泊で群馬県社会教育連絡協議会、教育委員会に出席しました。

12月には、福島県川又町教育委員会に東日本大震災（原発事故等）に伴う川俣町教育委員会の対応についての話があり川俣町教育委員会は、子供の命と健康を守ることを最優先に対応し、子供の学習権を

しっかり守ることを重視しているからです。

2月にはウララⅡに於いて第3回土浦市生涯学習推進協議会「第4次土浦生涯学習推進計画」のパブリック・コメントの検討など、最終計画案の確認についての話し合いをしました。初めての参加で戸惑いましたが大変勉強になりました。

明日の茨城を考える

女性フォーラムの報告

更生保護女性会 鈴木君枝

平成26年から2年間委員として参加しました。

5月15日に県庁で女性フォーラム委員の委嘱状交付式があり女性が県政について自ら学習して理解を深め、県政に対する提言を行うという設置要綱です。県内50名の女性が5部会に分散されました。

☆提言項目

- ① 充実した医療・福祉部会
- ② 暮らしの安全・安心部会
- ③ 心豊かな人づくり・文化部会
- ④ 活力ある産業・交流部会
- ⑤ 魅力ある地域づくり部会

私は文化部会で2年間19回の会議を経てやっと12月22日に

全部会がそれぞれ発表してその提言が橋本知事に提出されました。提言書策定のために10名で一泊二日の合宿もしました。提言書の内容は「今こそ居場所づくり」子どもから高齢者までが地域で集える場所、つまり居場所をどのような形で作るかを模索して提言として県政に届けることが出来ました。

第25回かすみがうらマラソン  
兼国際盲人マラソン大会協力

平成27年4月19日



疲労回復に  
「バナナをどうぞ」

「お疲れ様」  
笑顔で迎える  
土女連会員



## 女性消防団の役割

土浦市消防団女性消防部  
部長 清水裕美



消防隊の  
制服姿

近年、消防団員の減少・確保困難が全国的に問題となっています。そんな中でも女性消防団員は増加しています。平成27年4月現在、全国で約2万3千人の女性消防団員が活躍しています。活動内容も防火啓発活動・応急手当指導・高齢者宅の防火訪問・消防防災訓練等多岐にわたっています。

土浦市においては、平成21年4月に4名の団員で結成されました。当初より、全員が応急手当普及員の資格を取得し、市民に対する救急講習会で講師として活動してきました。

結成から今年で7年目を迎えました。現在の団員は25名となりました。活動の幅も広がり、それぞれの職業・資格を生かし、救急講習会はもちろんのこと、水防訓練・ポンプ操作大会でのアナウンス・血圧測定、出初式・成人式等での消防団員募集のPR

活動、各種訓練・講習会への参加等を行っています。又、かすみがうらマラソン大会ではAED隊として走路に配置しています。

平成24年度からは、女性消防部主体で、小学校高学年・中学2年生対象の救急講習会を開催しています。今年で4年目となりますが、今年度は全校小学校17校で実施予定です。多くの団員が子育て経験があるため、児童や思春期にある生徒への接し方を心得ていて、毎回スムーズな講習会の進行が可能ですと感じています。

この活動については、10月末佐賀県で開催された「全国女性消防団活性化大会」で、活動事例を発表させていただきました。これらの予防活動はもちろんのこと、今後起こりうる災害時に女性として、災害弱者の味方となり行動する事を求められることは、十分に予想されます。いざという時のために、日々の訓練に励み、女性ならではの活動ができるよう、今後も努力していきたいと思えます。



### 平成27年度

#### 土浦市女性団体連絡協議会事業報告

##### 〔自主事業〕

・総会 5/29

・センターフェスティバル 2/5

・学ぼうシリーズV 3/14

・役員会(含実行委員会) 13回

・調査研究部会

・会議 1回

・出前講座2回目「シルバー世代の食生活について」講義 2/1

・出前講座3回目「シルバー世代の食生活について」調理実習 3/15

・研修部会

・会議 4回

・「ゴミ処理場見学会」 12/8

・研修「日本女性会議2015倉敷」

報告会及び「明日の茨城を考える女性フォーラム」報告会 2/19

・総務部会

・会議(含つどい編集) 12回

・市議会定例会議会傍聴受付 8回

・〔共催事業〕

・ネットワーク事業 11/14

・〔協力事業〕

・第23回かすみがうらマラソン

兼国際盲人マラソン 4/19

・広島平和記念式典 8/5〜8/7

・人権と平和のつどい

(平和記念式典体験報告) 9/27

・日本女性会議2015倉敷

10/9〜10/10

### 〔編集後記〕

今年度は年度末の事業も多く、短期間での原稿依頼にもかかわらず、ご寄稿ありがとうございました。一部割愛させて頂いたこともお詫び申し上げます。

男女共同参画センターが新庁舎2階、メインストリートに

でき、土女連の活動も多くの市民の目に触れることになり、「つどい」編集の責任も重

くなつたような気がしております。

編集委員



編集委員

神立史子

小坂富士子

稲見清美

田中治江

加茂美那子

三松由美子